

よいことの Weekly Report

ために 2025-2026

手を取りあおう



創立 1969年4月14日
 承認 1969年4月23日
 チャーターナイト 1969年11月9日
 発行 IT・広報委員会

会長：鈴木雅博 / 幹事：堀井実 / 副会長：遠藤直樹 / 会長エレクト：藤田俊和 / 副幹事：岡田和幸 / S.A.A: 松岡寛征

今週のプログラム	第2663回	4月17日
新入会員卓話：山中健治郎会員		
担当者	プログラム委員会	例会場 JRホテルクレメント高松

先週のプログラム	第2662回	4月3日
高松グリーンRCとの合同例会		
担当者	プログラム委員会	例会場 天勝



鈴木会長挨拶

・皆さんこんばんは。
 本日は一年に一度の高松グリーンロータリークラブ様との合同例会です。
 今日はお客様に米子ロータリークラブと岐阜中ロータリークラブが参加してくれております。
 おいしいお酒とお料理を楽しみながら懇親を深めていただくと幸いです。
 最後までよろしく申し上げます。



堀井幹事報告

案内 ・4月7日、しっぽの森でペットフードの寄贈式を行います。
 村上会員のご尽力により多数のマスコミが取材に来られる見込みですので、御出席をよろしくお願い申し上げます。




ビジター

米子南RC 松浦常明様 錦織信雄様 宇佐美明様
 土岐哲己様 鹿島康裕様
 岐阜中RC 故金正司様

4月17日 今日は何の日	今日生まれの有名人名	
日恐竜の日/ハローワークの日/少年保護デー	1965年 武内陶子	1941年 市川森一
1970年「アポロ13号」が地球に帰還	1954年 高見沢俊彦	1935年 畑正憲
1985年 阪神巨人戦でバックスクリーン3連発	1951年 オリビア・ハッセー	1926年 小川宏
誕生花	「アイリス」花言葉は「よい便り・希望」	
誕生石	「ブルーカルセドニー」宝石言葉は「自信・思いやり・調和」	

奉仕の理想

奉仕の理想に集いし友よ
 御国に捧げん我らの業
 望は世界の久遠の平和
 めぐる歯車いや輝きて
 永久に栄えよ 我等のロータリー




ニコニコBOX

本日はたくさんありがとうございます。 鈴木
 本日はグリーンロータリー、米子南ロータリーの皆様方、 堀井
 ご参加いただきましてありがとうございます。 住谷
 グリーンクラブの皆さんよろしくお願ひします。 加藤
 家内に誕生祝をいただき。 木内
 家内に誕生祝をいただき。 泉谷
 妻に誕生祝をいただきました。

遅刻 1件

合計 7 件

本日の合計	34,500 円
2025-2026 年度累計	656,000 円

出席報告

出席委員長：大西一正

会員数 /	43 名	出席規準数 /	41 名
出席者数 /	33 名	欠席者数 /	8 名
出席率 /	80.49%	ビジター /	6 名
最終出席率 /	3 月 13 日	65.00% →	72.50%

2026年4月7日「しっぽの森」にペットフード寄贈



2026年(令和8年)4月10日(金曜日) 地域総合

高松西 R.C. 保護動物の支援へ
 しっぽの森に10万円相当
 ペットフード寄贈
 高松西 R.C. が、保護動物の支援へ、しっぽの森に10万円相当のペットフードを寄贈した。高松西 R.C. のメンバーは、しっぽの森を訪れ、保護動物の支援に尽力している。高松西 R.C. のメンバーは、しっぽの森を訪れ、保護動物の支援に尽力している。高松西 R.C. のメンバーは、しっぽの森を訪れ、保護動物の支援に尽力している。

RI 会長からのメッセージ (4 月)



運ではなく、準備こそが力

フランチェスコ・アレツォ
 2025-26年度 国際ロータリー(RI)会長

少し前のことです。ナイジェリア南西部のアイエ村にある小さな医療施設に、双子を妊娠した女性が、陣痛が始まった状態で到着しました。施設は人手不足で、担当の助産師は不在でした。

その時、ためらうことなく対応に当たったのが、ロータリー財団の大規模プログラム補助金による取り組み「ナイジェリアの家族の健康のための協力」に参加していた地域ヘルスワーカーでした。彼女は正式な助産師ではありませんでしたが、緊急産科に不可欠なスキルを研修で身に付けていました。

数時間にわたる対応の末、双子は無事に誕生しました。一人はその施設で、もう一人は合併症が迅速に確認され、搬送された総合病院で生まれました。的確な判断と連携により、母子共に命を守ることができました。

世界各地で、多くの女性が同じような状況に直面しています。生死を分けるのは、十分な訓練を受けた医療スタッフの存在と、信頼できる医療体制や手順が整っているかどうかです。

「ナイジェリアの家族の健康のための協力」は、こうした状況に希望をもたらすための取り組みです。保健医療体制を強化し、最前線で活動する人々を育成することで、どのような困難な状況下でも地域社会が母子を守れるよう支援しています。

この活動は、ロータリーの奉仕の神髄を体現しています。奉仕とは、理想的な環境が整ったときにだけ行うものではありません。システムが逼迫し、リソースが限られ、緊急のニーズが生じたときにこそ求められるものです。それこそが、危機が訪れる前から準備を、危機が起きたときには地域社会と共に立つという決意です。

母子の健康は、抽象的な目標ではありません。極めて個人的で、切実な課題です。出産を生き抜いた母親、産声を上げる新生児、健やかな家族。これらは訓練を受け、備えを整え、行動する意志を持った誰かがいたからこそ存在するのです。ロータリーは、奉仕とは、試練に直面するずっと前から人と仕組みに投資することだと理解しています。

「ナイジェリアの家族の健康のための協力」のようなプログラムは、地域の知見、国際的なパートナーシップ、そして持続可能な解決策が結び付いたときに何が可能になるかを示しています。医療従事者や地域のリーダーと協働することで、命を守る医療が運や住む場所によって左右されない社会の実現を後押ししています。

冒頭の母親と双子の物語は、本質的に奉仕の物語です。人が最も弱い立場に置かれたとき、誰かが一歩前に出て支える。その人間的な瞬間にこそ、ロータリーの真のインパクトがあります。

私たちが「よいことのために手をとりあう」とき、奉仕は単なる理想を超えます。それは家族にとっての命綱となり、地域社会にとっての力の源となり、そして最も支援を必要とする場所へこれからも歩み続けるという、ロータリーの約束となるのです。

次週のプログラム

第 2664 回

5 月 1 日

新入会員卓話：五ノ坪佑輔会員

担当者 プログラム委員会

例会場 J R ホテルクレメント高松